

委員会から

# 第6回 社会活動事例発表会の開催報告

Activity to Society Case Study Presentation Report

## 1 社会活動事例発表会開催の概要

2016年2月27日、第6回社会活動事例発表会が、昨年と同様多くの参加者に参加いただけるよう土曜日に日本技術士会の葺手第二ビル5階会議室にて開催された。参加者は48名で多くの技術部門からの参加があった。

当日は、広報小委員会事例発表グループの武井氏の司会にて、日本技術士会副会長兼社会委員会委員長 橋場氏の開会挨拶に始まり、4つの社会活動事例の発表を行った。



写真1 発表会場

## 2 事例発表概要

### 発表1

「サイエンスアゴラを振り返ってーサイエンスアゴラとはー」

科学技術振興支援委員会 しんどうのりかず 神藤典一 (金属部門)  
あべまさたけ 阿倍真丈 (金属部門)



写真2 神藤典一氏・阿倍真丈氏の事例発表

サイエンスアゴラは、「科学と社会をつなぐ科学コミュニケーション実践のための広場（アゴラ）」として、科学技術を活用してよりよい社会を実現するための方策を多角的に論じ合う複合型のイベントである。

サイエンスアゴラは、2006年に初めて開催され、日本技術士会は、2011年に初めて参加し、この時は防災支援委員会が主体となって活躍した。2012年からは、科学技術振興支援実行委員会が主体となり進めてきている。

今年のサイエンスアゴラ2016は、「先端技術が生み出す新しい医・食・くらし」、「教育・文化芸術・スポーツと科学との協働」、「震災復興5年に学ぶこれからの科学の役割」をテーマとして開催されるが、本日で参加された皆さんも、是非参加されてはいかがかと締めくくった。

今年度の事例発表は、「千葉県支部防災支援チームの活動事例」

### 発表2

「千葉県支部防災支援チームの活動事例」

千葉県支部防災支援チーム  
えとうまさつぐ 江藤政継 (建設部門)



写真3 江藤政継氏の事例発表

### 活動事例紹介

- ① 支部内での存在感を示す
  - ・ 定例会を実施（確実に隔月9回、議事録）
  - ・ 行事実施（CPD 講演会他外部向け）
  - ・ 幹事会で報告（報告書、発言、見える化）
- ② 支部内CPD講演会実施
  - ・ 演題：1) 土砂災害に備える
  - ：2) 防災・災害情報を10倍活用
- ③ 市民活動実施
  - ・ 船橋市「市民活動」報告会参加

- 1) 市民活動ふれあい広場へ（平成26年度）
  - 2) 船橋市民活動フェア2016（平成27年度）
- ④ 一般講演会と災害体験（松戸市後援）
- ・内容：1) 県の防災施設で災害体験
  - : 2) 講演：「自然災害と防災の基礎知識」（国立防災科研）
- ⑤ 防災訓練に参加
- 1) 第34回九都県市合同防災訓練
  - 2) 平成27年度東京都・千代田区合同帰宅困難者対策訓練

### 発表3

#### 「工事監査の実務について」

工事監査支援ワーキンググループ  
 みよし おさむ  
**三好 修**（建設／総合技術監理部門）



写真4 三好修氏の事例発表

工事技術調査の目的は、事業目的にかなった合理的設計がなされているか、工事監理は適切になされているか、施工管理は適切になされているかの確認、及び公共事業の効率化・住民福祉の向上である。

工事技術調査の進め方としては、午前中に書面閲覧及び質疑応答による書面調査を行い、午後は現場調査、現場書類審査及び質疑応答による現地調査を行い、後日報告書を提出することになる。

工事技術調査を実施することのメリットには、直接的メリットとして、

- ・設計・積算上の問題点、現場出来形確認、施工管理状況などをチェックできる。

などがあり、また、間接的メリットとして、

- ・技術職員の考え方、発想内容などの変革
- ・合理的な工事監理のあり方についての意識向上
- ・市民への透明性のアピール

などがある。

### 発表4

#### 「司法支援業務の一考察－裁判所の鑑定業務の体験からの提言－」

司法支援小委員会

まつなぎ ひろし  
**馬縹 宏**（機械／総合技術監理部門）



写真5 馬縹宏氏の事例発表

法医学の鑑定では医者が遺体を調査して死亡原因の究明を行うが、工学分野では航空機、船舶、列車等の事故は国の専門機関が行い、それ以外の場合は、誰が原因究明をするかは決まっていない。鑑定人は、民法では専門的知識を有する第三者とされ、利害関係者はなれず中立・公正であることが前提となる。

日本技術士会では、約13年前に工学鑑定グループを設立し、多分野の技術士が集まり研鑽を継続中である。

裁判における鑑定の特徴としては、あくまでも紛争の解決が目的であり、真理の究明ではない。また、理論のみでよく実証の必要はないが、中学生にでも理解できるような表現と工夫が必要である。

日本技術士会は、その中立・公正と技術の専門家としての立場を活かし、司法支援小委員会としても裁判の調停・鑑定などに積極的に助言・提案を行うべきである。

## 3 全体を通して

発表の後、社会委員会広報小委員会委員長 榎本氏の閉会挨拶で終了となり、その後有志による交流会も行われた。

発表事例が関心の高い話題であり、参加者による活発な質疑応答もなされ、熱心な発表会であった。

## 社会委員会

e-mail : cshakai@engineer.or.jp